

【ご意見11】

坂本社長様

121対8という多数決が出たのなら、多数決にしたがうのが
ルールだと思います。

どうして多数決の決まりを守れないのですか。

だったら多数決の意味がないと思います。

ぼくたちの学校を続けてください。

4A

(編集注: 確認のためにこの生徒さんの保護者の方にご連絡差し上げたところ、お母様はお子さんがPTAにメールされていたことをまったくご存知ありませんでした。しかしお子さんの思いが伝わるならばと、匿名にする条件で快く掲載をご許可いただきました。)

【ご意見12】

足立会長 タスクフォースの皆様

皆様 本当にいろいろと ありがとうございます。

9月5日の審議会説明会に参加し、感じたことを発言したかったのですが、
時間切れとなってしまい 黙って帰ってしまったことを 悔やんでいます。

このメールは 審議会の皆様の目にも触れるものと思い、書かせて頂きます。

審議会の皆様、

いつも 私たちの子供達の学校のことで 多大な時間と労力を費やして頂いて
感謝しております。特に、先日の説明会など、連休ということもあり、
ご家族の皆様にも ご負担だったこと 思います。貴重なお時間を頂いて
わざわざ学校まで いらして下さったのに、数字の資料のお話は
正直な所 お話のスピードについていけず、申し訳なく思いました。

(相違点について、担当の方と黒木さんとで 後日また、ということに
なったようでしたので、近いうちに審議会から ご報告いただけるものと お待ちしております。)

ですが、私にも一つだけ はっきり分かることができました。それは、坂本会長がおっしゃる、「保護者の理解を得られるよう努める」は「売却リースバック案を 受け入れてもらうために 尽力する」という意味であって、「お互い歩み寄る」(これも 坂本会長のお言葉でしたが)ことではなかった、つまり、審議会の皆さんには PTA の意見に耳を傾けよう、という姿勢は見られなかった、ということです。

「相互にあゆみよる」ためには、 お互いが相手の意見を聞かなければなりません。そのために 説明会で 保護者の意見や質問の時間をとって下さっていたのだと思っていたのですが、参加してみて それが形式に過ぎないという印象を強く受けました。なぜなら、初めから「売却リースバックは かならず やります。ただ、校長やPTA がイエスと言わない間は やりません。だから、イエスと言ってもらえるように 努めます。」とおっしゃっておられるように聞こえたからです。

PTA は 現在は売却リースバックに反対していますが、それは もともと校長先生が不安を感じておられる「共用」への 反対でした。ですが、「共用」が契約の条件であるなら、今度は 契約そのものに反対せざるを得なくなりました。そして今では、「本当に 売却がベストの選択なのか？」という疑問を強く持っています。この疑いがなくなれば、(つまり 本当に 売却しか道がないのであれば) 私たち PTA は 審議会の皆様と手を取り合って その道を選ぶことが出来るのではないかと、思います。

ただ、この 疑いをなくすためには、(つまり、こちらからも歩み寄る為には、)やはり 審議会の皆さんに スタートに戻って最初から 全ての案を検討する作業をしていただかなければならないと 思います。たとえば、5日の説明会であるお母様が出された、「売って 借りるのではなく、借りない部分だけを 売ってはどうか？」と言った意見を、「役所からの返事に何年かかるかわからない。」などと かたづけしないで、トライしてみてくださいませんか？(「PTA の誰かが OK 取ってきてくださるのなら ありがたい」というような事をおっしゃっていましたが、これは 審議会の仕事では ないでしょうか?) たとえ 返事が5年かかるとしても、NJ 校との統合の話が出てから既に何年も経っていることを考えれば、売却して移転先が見つかるまでに何年かかるかわからないことと 役所の返事に何年かかるかわからないこと、どちらが 見通しが明るいのでしょうか？ どちらも不透明なら 少なくとも自分たちの校舎を持っているほうがベターのように思えるのですが…。グリニッチへの移転当時からの 先輩方の大変なご苦労と これまでの実績や 現在の近隣の住民の方々との関係を考えれば、(今では 日曜日の運動会に マイカーの乗り入れが許されていますが、移転当初には 想像もできない事だったのでは ないでしょうか?) 交渉してみる価値は十分にあるのでは ないでしょうか。

手は尽くして下さって、それでも尚、売却しか道がない、と言われれば その時は「何が何でも 絶対反対！！」と 座り込む程、保護者は頑固でも わがままでもないと思います。ですが、先日の説明会のように、「売却リースバックを 理解してください」というスタンスで始まる集会では 何度 集まっても 保護者の理解は得られないと思います。なぜなら、保護者は 審議会の皆様が「売却リースバック案が ベストであると 考えるに至った過程」について 疑問を抱いているからです。もう一度 ゼロに戻って考え直して頂いて、それでも 同じ結論に達した時は 今度は私たちは何の疑いも持たず、ただ 審議会の皆さんの尽力に感謝し、「苦渋の決断」と言う言葉を 共感を持って聞かだろろうと思います。その上で、与えられた環境の中で出来る限り子供達を守ろう、という思いもわくでしょうし、母親のボランティアで 昼休みに子供達の様子を見にきたり、相手校の生徒たちに興味があるようなら 折り紙や日本語を教えることを通して 子供同士の交流の手助けをしよう、という気持ちも持てるかも知れません。結局 同じ結論に達するのであれば、時間の無駄、と思われるかも知れませんが、決定に対する 保護者、そして 子供達の見方は 180度変わるわけです。もちろん、審議会と保護者、そして学校の関係も ずっと良くなるに違いありません。(そして、これが PTA の願いでもあると思います。)

「相手のあることですから」と 繰り返しておられましたが、こちらも 子供たちが見えています。「共用」に対する不安(これには もちろん 人種的、宗教的な要素は 全く無関係です。)や、テナントという 弱い立場に陥ることへの不安を きちんと 相手校に説明していただければ、相手にも 聞く耳はあるのでは、と思うのですが、いかがでしょうか。

長々と申し訳ありませんが、こういった思いは「一部の保護者」ではなく「多くの保護者の思い」ですので、(そして、じつは 日本人学校に通う子供達の 保護者だけでなく、「あと少し頑張って、どうしてもダメだったら 日本人学校へ・・・。」という思いを抱えながら 子供を現地校へ通わせていらっしゃる保護者の思いでもあるという事をご理解いただけたら、と願い 書かせて頂きました。

[ご意見13]

〈審議会説明会についての感想〉

9月初頭に開催された審議会の説明会につきましては、一個人として、足立会長や、PTAタスクフォースの皆様に対してだけでなく、説明会を開催して下さった審議会の皆様に対しても大変感謝しています。

休日を返上しての説明会開催、それに伴う資料の準備などに多大な時間がかかったであろ

う事は容易に想像できることですし、何より、自分達の生活とはまったく関係の無い日本人学校の為に、大切なお父様をお家から送り出すご家族のお気持ちを思うと御礼を申し上げるほか無い、と感じました。

数字の解釈はともかくとして、財務担当のヨネザワ様のお話は素人がきいても大変わかりやすく、おだやかな語り口にも誠意を感じました。

三日間の説明会に対しては、保護者の関心も高く、審議会の説明も今までに無く、準備に時間を割いてくださったものと思われ、今後の歩み寄りのきっかけになればいいのに、と願っていました。

この説明会がこれからの新たなスタートラインとなって欲しい、というのが私の希望でした。

個人的には、審議会の方々の苦しいお気持ちを差し引いても今回の売却案は受け入れがたいものです。経営云々を抜きにして、まず、学校は子供が実際にそこで生活する教育現場であるという視点に欠けています。

たとえ、売却、リースバックにより、今後の経営が順調になったとしても、今回の共用案には無理がありすぎます。今までの話し合いの中で、何度も保護者からも、そして審議会からも「責任を明確に・・・」との言葉が出てきています。

審議会では二校の校長の学校敷地内での責任区分を明確化しさえすれば、互いに責任がとれる、と考えていらっしゃるように見受けられますが「責任をとる」とは一体何なのでしょう。

現在保護者の心配の中心となっているのは子供同士の間になにかトラブルがあった場合の責任であり、それは、器物破損などの場合の「弁償」で綺麗に片が付くケースの話ではない、という視点が全く抜けています。

勿論、子供同士のトラブルは無いかもしれない・・・。

起こったとしても、その時々に対応で済ませていくことができるケースかもしれない。

トラブルというのは起きたときに考えていくもの、というのも、一種の真理で、あながち間違っていないような気がします。けれども・・・

子供の健康や、生命に何らかの支障をきたすような事故があったとき(これは、日本人学校側でも、相手校側でも、です。)何人たりともその子供に対する真っ当な責任を取ることとはできないのです。

謝って済むことでもなく、まして誰かの「引責辞任」で何が元に戻るわけでもない。

オウムの一連の事件を見ても然り、

記憶に新しいJRの脱線事故の現時点での中途半端な収束を見ても然り。

それだから、その「何か」が起こる前に、せめて我が子を安全な巣の中に置きたいと思う

親の心を審議会の方々は贅沢、わがままとお笑いになりますか……

説明会の当日にお聞きできなかったのが今更のように悔やまれます。

会社圧力が議事進行の中で問題になっている最中に、カワムラ氏が保護者の挙手を求めて浪花節をひねっている時間にもお聞きしておけばよかったと思っています。

審議会がお考えの、英語、日本語が堪能な人員の採用、というも人物の信頼性においても費用面でも不安が残ります。

あともう一点、生徒指導プログラムをはじめとする研修プログラムの実施をお考えの様ですが、しっかりとした研修を前提とした場合、この事が、先生方の教材研究の時間に大きく割り込むのが目に見えていますし、形だけの研修であれば時間と費用の無駄です。

只でさえ忙しい日本人学校の先生方の時間をこれ以上削ることは、坂本会長のおっしゃる「ソフト面の低下」につながることは目に見えています。

ですので、この「共用」という案を含む限り、売却、リースバックという案は受け入れがたく感じます。審議会の提案に賛成すると、自動的にこの「共用案」も受け入れることとなりますが、不安があまりにも大きいため、やはり賛成はできません。

本来審議会と日本人学校保護者というのは今のように対立しあう関係ではなく、手を取り合って助け合う間柄である筈だと思います。

校長先生も、この共用の運営詳細については深く考えることが必要、とおっしゃったと思います。

今後の審議会との理解を深めるためにも、売却契約の為の一切を凍結し、一から考える時間が必要だと強く感じます。

今回の件に関しては、

審議会側にしてみれば、学校運営の一切を審議会に丸投げしてきた保護者(これは、一方的にそうしたかったわけではなく、駐在期間が読めないがゆえに、学校の近未来にさえ責任が持てない、という保護者の一種の「自覚」が、学校運営に口出ししなかつたりできなかったりする理由になったのだとは思いますが。)に対して

「今頃何言うねん??」と言いたくなるのも解らなくはない、と感じています。

只、恐らくはグリニッチ校開校以来、学校運営の一切を取り仕切ってきた教育審議会も、保護者とが学校運営に関して積極的に介入(介入できなかったとの噂も多く聞きますが、真偽のほどはどうなのでしょう？知りたいものです。)しないのをいいことに、あまりにも「やりたい放題」だった・・・という部分はなかったのでしょうか。

今更言っても始まらないことですし、学校の将来の運営には何の関係も無いことかもしれませんが、放火事件勃発の当初、保護者が学校の行く末と同じくらいに知りたかったのは「事務局長さんが今まで何をしてきたか」であり、結局そのことは、すべて有耶無耶にされてしまったな・・・という気持ちが残ります。

学校や、先生や、子供たちの現状を見据えた上でのご判断をいただけないのであれば、これほど残念なことはありません。